

“百年の信頼を、未来につなげる”

株式会社鳥羽洋行  
2022年3月期  
決算説明会資料

2022年5月12日(木)

- I . 2022年3月期決算について
- II . 2023年3月期の戦略及び見通し
- III . 補足情報

# I . 2022年3月期決算について

# I. 2022年3月期決算について

## 2022年3月期の決算ハイライト

### <史上最高の連結売上高297億円を達成 前期比18.7%増>

- ◆国内は、コロナワクチン接種状況の進展により個人消費や企業の設備投資マインドは回復基調で推移。海外は、米国・中国を中心に順調な景気回復が見られた。
- ◆世界的な半導体不足を背景に、年間を通じて半導体の需要が高まり市場が活性化。関連得意先への売上が大幅に増加。
- ◆自動車・車載部品業界への販売額は自動車生産台数の回復の遅れの影響を受け、前年を下回る水準で推移。

### <営業利益が大幅に増加 前期比55.0%増の1,971百万円>

- ◆前期と比較して売上総利益率1.0 P 改善。
- ◆販管費は、前年比11.3%増にとどまる。

### <一部販売商品の需給ひっ迫>

- ◆半導体不足の影響や東南アジアを中心としたサプライチェーンの混乱を背景に、一部販売商品の需給がひっ迫し、各得意先への長納期化の影響があった。

# I. 2022年3月期決算について

## < 2022年3月期 連結損益計算書の概要 >

(単位：百万円)

	21/3月期	22/3月期	前期比 (増減率)	備 考
売上高	25,040	29,730	18.7%	
営業利益	1,272	1,971	55.0%	・売上総利益率は+1.0P ・販管費は前期比+11.3%
営業利益率	5.1%	6.6%	1.5P	
経常利益	1,384	2,061	48.9%	
経常利益率	5.5%	6.9%	1.4P	
親会社株主に帰属する 当期純利益	949	1,424	50.1%	
当期純利益率	3.8%	4.8%	1.0P	

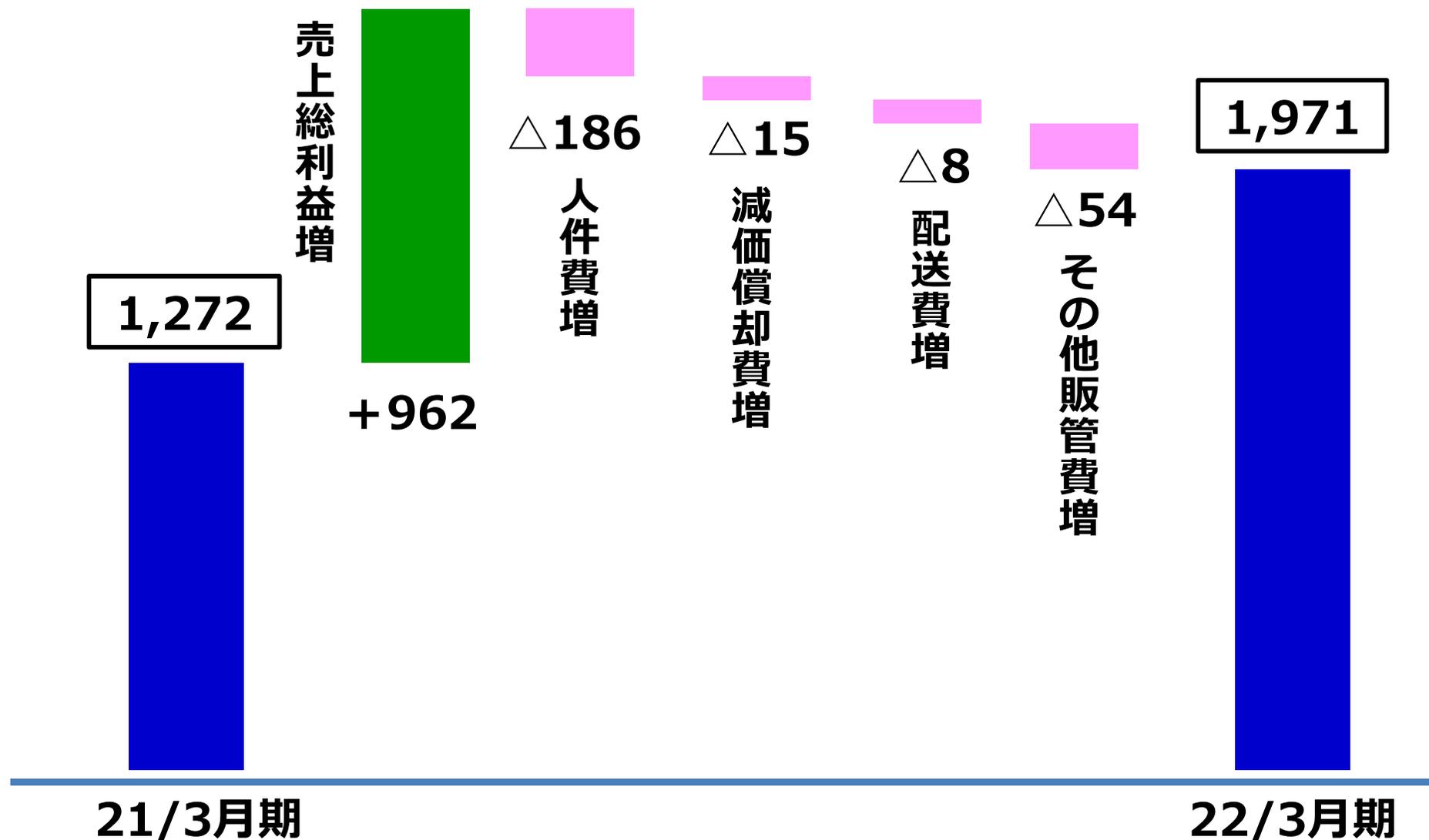
### Point !

- 当社グループの連結最高売上高を更新
- 電子部品や半導体・液晶製造装置に関連する得意先への販売が増加

# I. 2022年3月期決算について

## <連結営業利益増減分析>

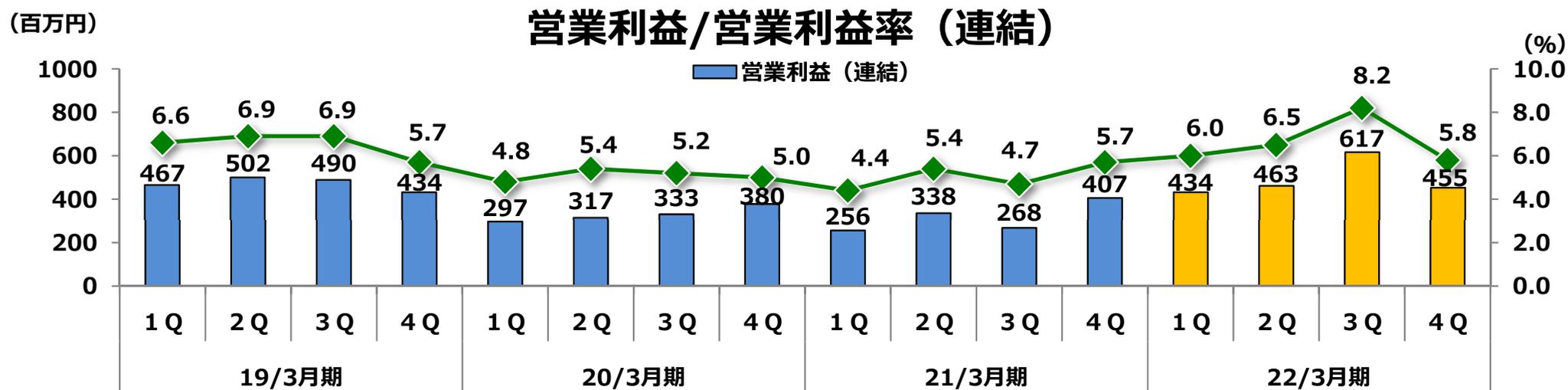
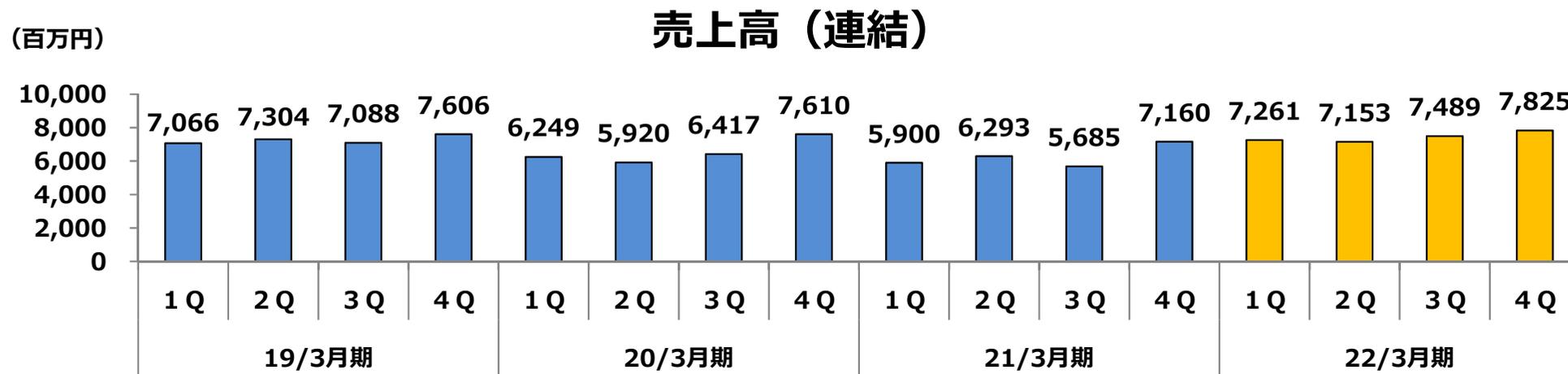
(単位：百万円)



※数値は百万円未満を切り捨てて表記しております。

# I. 2022年3月期決算について

## <四半期毎の売上高・営業利益（連結）の推移>



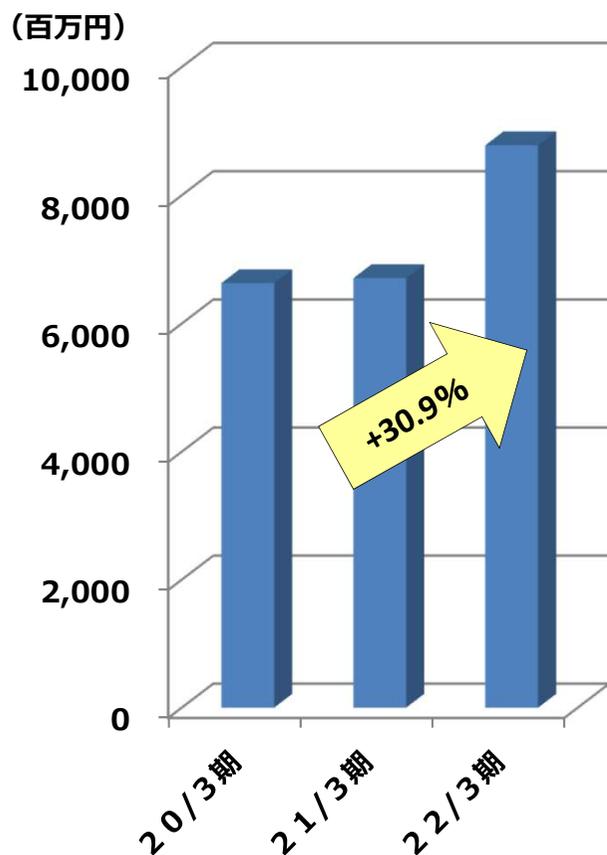
### Point !

- 電子部品や半導体・液晶製造装置に関連する得意先への売上が大幅増加
- 3期ぶりに各四半期売上高が70億円超を達成

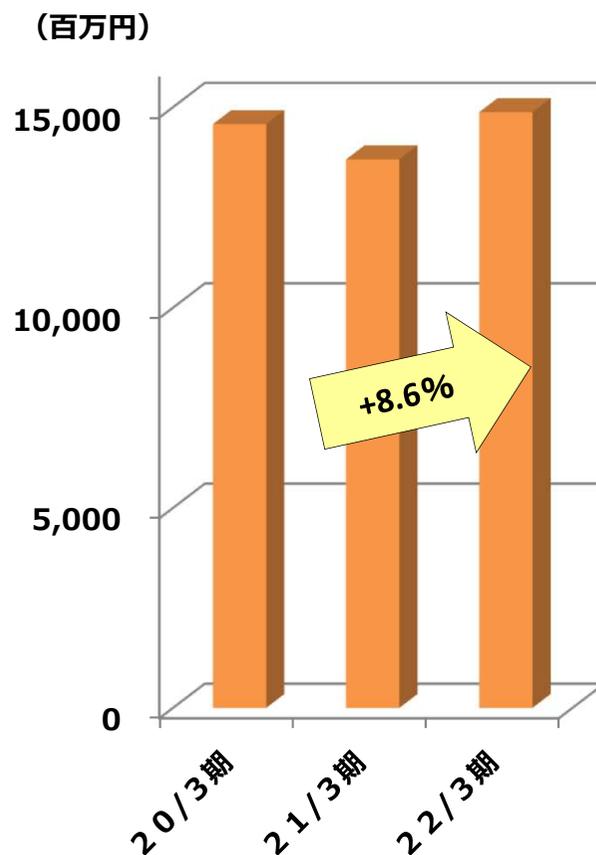
# I. 2022年3月期決算について

## <部門別売上高（連結）推移>

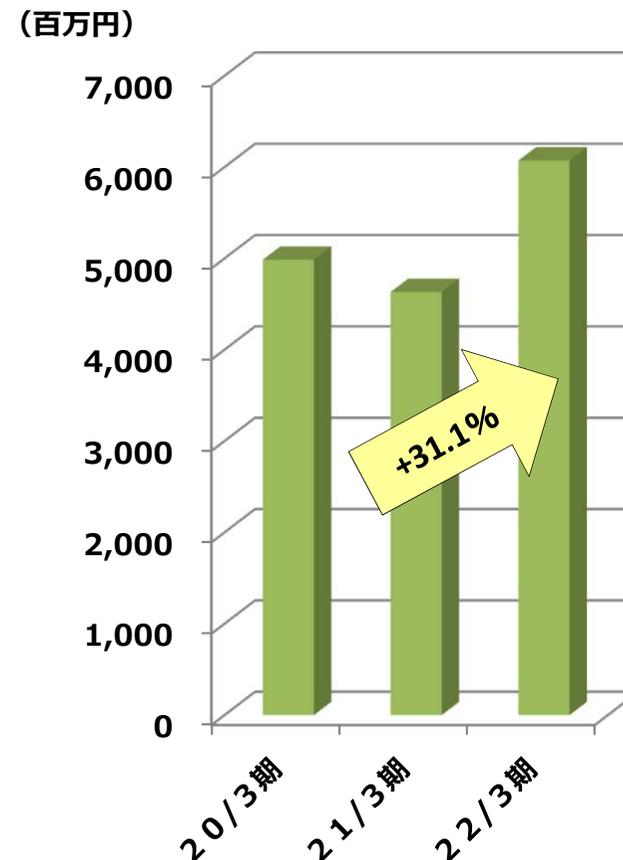
### 制御機器



### F A 機器



### 産業機器

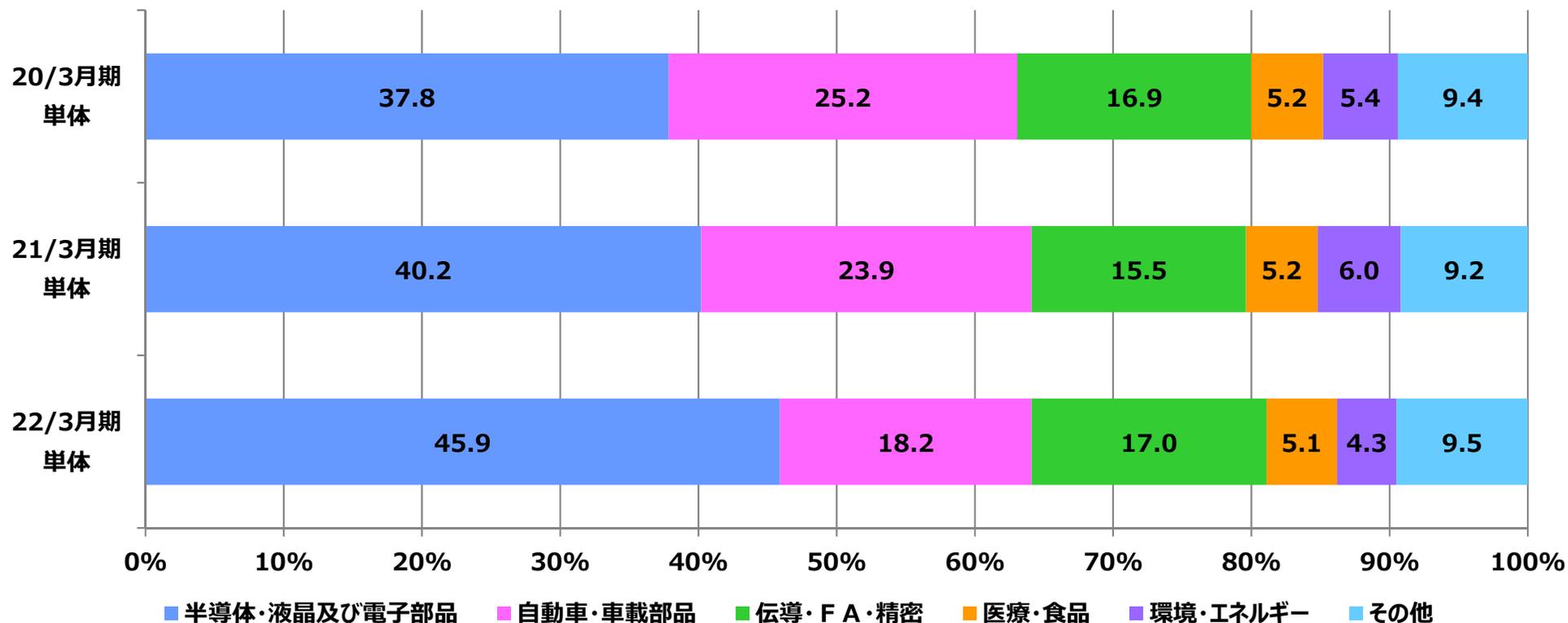


### Point !

「F A 機器部門」はマウンター関連の受注が好調に推移したものの、半導体不足の影響を受け需給がひっ迫し、他部門に比べ伸びが鈍かった。

# I. 2022年3月期決算について

## ＜業種別売上構成比（単体）推移＞



### ＜半導体・液晶及び電子部品＞

空気圧機器や産業用ロボットの販売が拡大（+5.7 P）

### ＜自動車・車載部品＞

自動車生産台数の回復の遅れから受注が伸び悩む（△5.7 P）

### ＜伝導・F A・精密＞

工作機械市場の回復により、工作機械関連の販売が増加（+1.5 P）

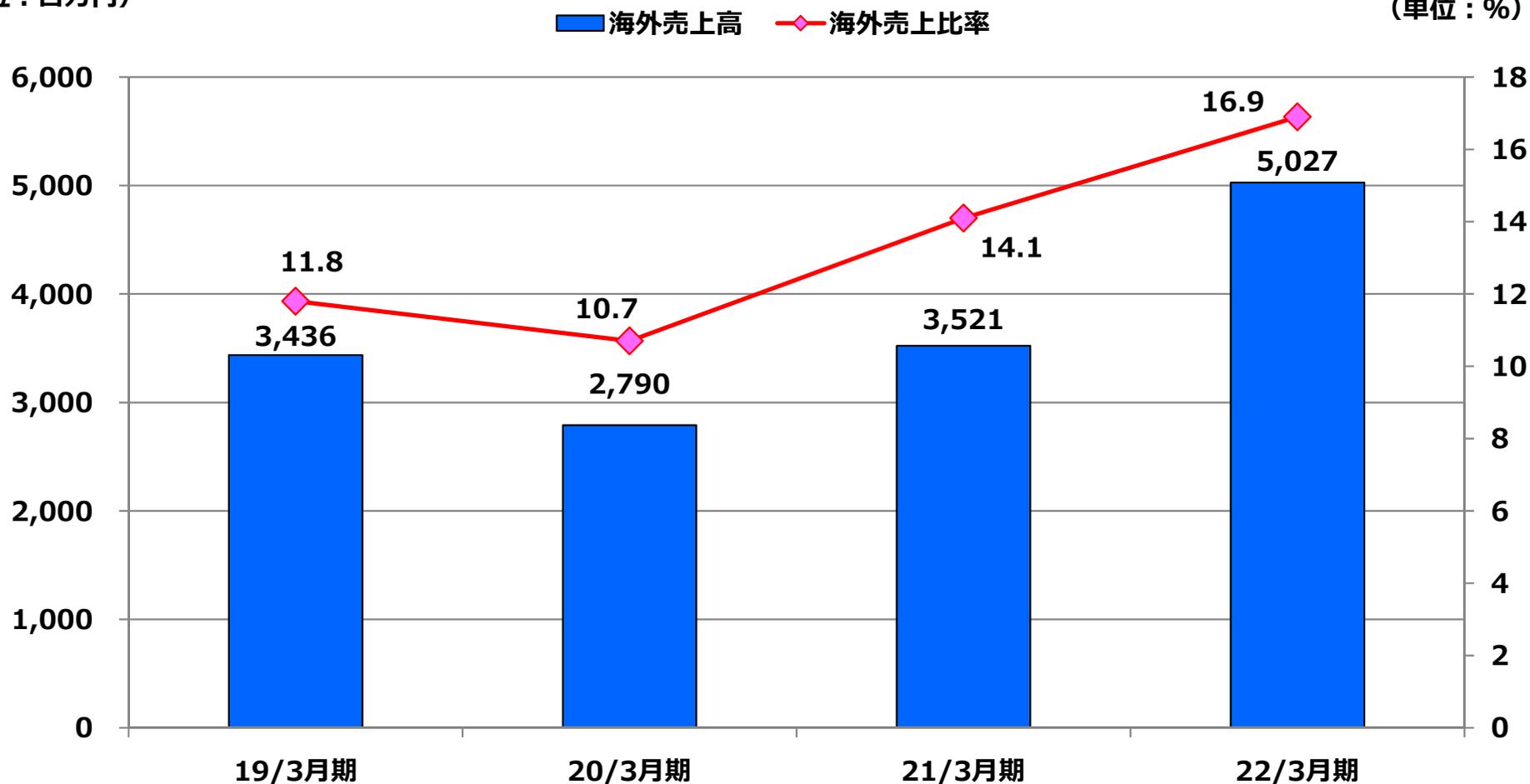
**Point !**

# I. 2022年3月期決算について

## <海外売上高・海外売上比率（連結）>

（単位：百万円）

（単位：％）



**Point !**

中国でのスマートフォン関連得意先へのロボット販売が前期に引き続き好調に推移。

# I. 2022年3月期決算について

## <2022年3月期 連結貸借対照表の概要>

(単位：百万円)

	21/3月末	構成比 (%)	22/3月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	20,786	76.3	21,761	75.1	
現金・預金	10,173	37.4	10,100	34.9	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	10,163	37.3	11,251	38.8	
商品	368	1.4	275	1.0	
固定資産	6,443	23.7	7,206	24.9	
資産合計	27,230	100.0	28,968	100.0	
流動負債	8,397	30.8	9,237	31.9	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	7,596	27.9	8,129	28.1	
固定負債	471	1.7	450	1.6	
負債合計	8,869	32.6	9,687	33.4	
純資産合計	18,361	67.4	19,280	66.6	
負債純資産合計	27,230	100.0	28,968	100.0	

**Point !**

構成比に大きな変化はございません。

# I. 2022年3月期決算について

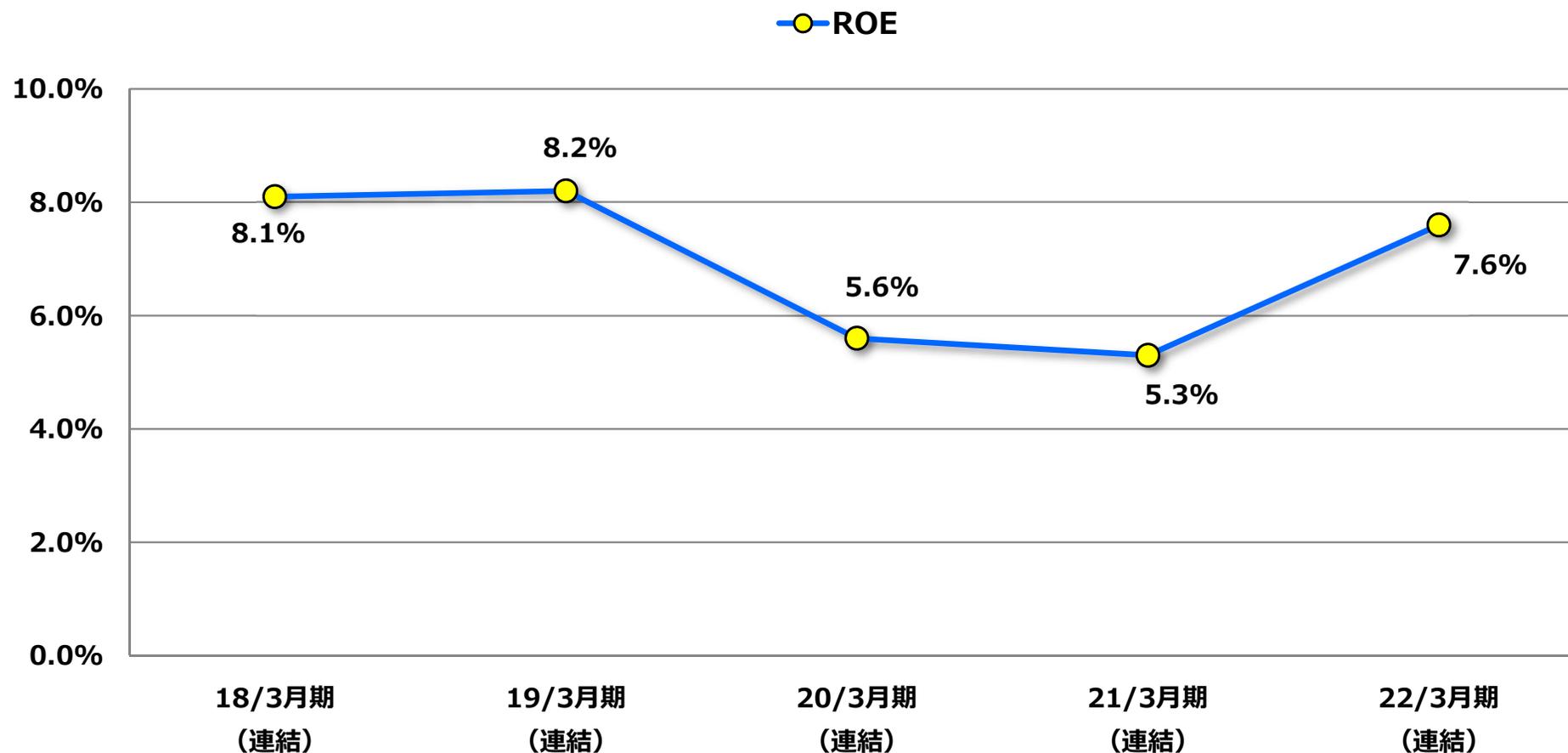
## <連結キャッシュ・フロー計算書の概要>

(単位：百万円)

	21/3月期	22/3月期	2022年3月期のC Fの主な内訳
営業活動によるC F	1,040	1,360	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前当期純利益の計上 (+2,065百万円)</li> <li>・仕入債務の増加 (+473百万円)</li> <li>・売上債権の増加 (△953百万円)</li> <li>・法人税等の支払 (△522百万円)</li> </ul>
投資活動によるC F	△598	△752	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期預金の払戻 (+1,000百万円)</li> <li>・定期預金の預入 (△1,500百万円)</li> <li>・無形固定資産の取得 (△188百万円)</li> </ul>
財務活動によるC F	△520	△751	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己株式の取得 (△334百万円)</li> <li>・配当金の支払 (△433百万円)</li> </ul>
現金及び現金同等物 に係る換算差額	8	71	
現金及び現金同等物 の増減額	△69	△72	
現金及び現金同等物 の期首残高	9,742	9,673	
現金及び現金同等物 の期末残高	9,673	9,600	

# I. 2022年3月期決算について

## <ROEの推移>



■ ROEは**8.5%以上**を目標

# I. 2022年3月期決算について

## <主要な経営指標（連結）>

	第70期 2019年3月期	第71期 2020年3月期	第72期 2021年3月期	第73期 2022年3月期
自己資本比率	62.6%	66.0%	67.4%	66.5%
自己資本利益率（R O E）	8.2%	5.6%	5.3%	7.6%
総資産利益率（R O A）	5.2%	3.6%	3.5%	5.1%
株価収益率（P E R）	8.5倍	10.7倍	11.7倍	8.5倍
株価純資産倍率（P B R）	0.7倍	0.6倍	0.6倍	0.6倍
1株当たり当期純利益	317.31円	224.91円	219.41円	330.69円
1株当たり配当額	120円	120円	100円	120円
配当性向	37.8%	53.4%	45.6%	36.3%
純資産配当率（D O E）	3.1%	3.0%	2.4%	2.7%

※2022年3月期の1株当たり配当額は、配当予定額であります。

## Ⅱ． 2023年3月期の戦略及び見通し

## Ⅱ. 2023年3月期の戦略及び見通し

### <2023年3月期の国内市場環境予想>

- ◆ 経済活動の正常化  
新型コロナウイルス感染状況の緩やかな改善や3回目のワクチン接種率の上昇等により、個人消費や企業の設備投資マインドは一層の回復基調が見られるものと予想。
- ◆ 自動車・車載部品業界  
世界的な半導体不足の解消の動きが加速していくとともに、自動車生産台数の回復が見込まれるものの、先行きは依然不透明な状況が続くものと予想。
- ◆ 地政学的リスク  
新型コロナウイルスの変異株の蔓延や米中対立等に加え、ロシアによるウクライナ侵攻、原油・資源高等、先行きに大きな不安要素は継続していくものと予想。

## Ⅱ．2023年3月期の戦略及び見通し

### <2023年3月期の海外市場環境予想>

- ◆ ロシアによるウクライナ侵攻の影響は世界経済全体に及び、見通しは不透明な状況が継続している。
- ◆ 米国の政策金利の引き上げや対ロ制裁等を背景に、消費者マインドの改善には時間を要する可能性が見受けられる。
- ◆ 欧州では新型コロナウイルス新規感染者の一部増加も見られ、ロシア政府からの対抗処置も相まって景気回復は停滞する可能性が顕在化。
- ◆ 中国では大規模なロックダウンが継続しており、さらに米中対立等の地政学的リスクの高まりによる経済活動の停滞から景気の下振れが懸念される。

# Ⅱ. 2023年3月期の戦略及び見通し

## <2023年3月期の戦略①>

### ◆次世代の柱となるユーザー開拓

- ▶ 5G 関連潜在需要の取り込み  
半導体、電子部品、スマートフォン、AI・IoT、基地局、ゲーム等に関連する得意先
- ▶ 自動車・車載部品業界へ積極的に拡販（車載電池、CASE、ADAS等）
- ▶ 三品業界など自動化が進んでいない得意先への協働ロボット等、FA機器の販売を積極的に展開

### ◆装置・システム案件の更なる拡販

- ▶ 単品販売から製造ラインの自動化まで、システムインテグレーション事業として拡販

### ◆半導体向けろ過フィルターやEビジネスでの売上拡大

- ▶ ろ過フィルターでは、専任担当者を増員し拡販
- ▶ Eビジネスでは、商品の入れ替え及び拡充

### ◆新商材の発掘

- ▶ 各種ロボット、AGV（無人搬送車）、AMR（自律走行搬送ロボット）、各種自動機 等

## Ⅱ. 2023年3月期の戦略及び見通し

### <2023年3月期の戦略②>

#### ◆海外拠点との連携強化し売上拡大

- ▶ ベトナム現地法人の早期黒字化支援
- ▶ 新規進出拠点検討

#### ◆売上拡大施策

- ▶ 当社主催『複合展示会』の開催により、新商品アイテムの拡大
- ▶ 大型展示会へ出展し新規顧客の獲得

①第2回 工場の協働ロボット利活用展（東京ビッグサイト）

2022年7月20日～22日

②第25回 関西機械要素技術展（インテックス大阪）

2022年10月5日～7日

## Ⅱ. 2023年3月期の戦略及び見通し

### <2023年3月期の業績予想>

(単位：百万円)

	22/3月期 (実績)	23/3月期 (予想)	前期比 (増減率)
売上高	29,730	31,000	4.3%
営業利益	1,971	1,960	△0.6%
営業利益率	6.6%	6.3%	△0.3 P
経常利益	2,061	2,070	0.4%
経常利益率	6.9%	6.7%	△0.2 P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,424	1,440	1.1%
当期純利益率	4.8%	4.6%	△0.2 P

## 社内基幹システムの更新（設備投資）

- ◆ 目的  
業務の生産性を高めるとともに、CS（顧客満足度）の向上を目的とし、当社基幹システムを段階的に更新しております。  
一部のシステムは既に稼働を開始しております。
- ◆ 投資総額：約7億円
- ◆ 導入完了時期  
2022年11月

この資料には、2022年5月9日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

### [問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行

管理本部総務グループ I R 担当

住 所：〒112-0005

東京都文京区水道2丁目8番6号

電話番号：03-3944-4031

F A X：03-3944-4091

E メール：kanri-01@toba.co.jp